

天晴れ！！ 喝だ！！

日曜日の朝の番組で、あらゆるスポーツの結果とその批評を行っている。主にプロ野球、サッカー、ゴルフ、その他、スキーのジャンプとか卓球とか、バドミントンとか、マイナースポーツにも焦点を当てていて、好プレー、珍プレーなどを網羅している。もともとは、故大沢啓二元監督と張本勲のコンビで始まったものである。多分に大沢監督の人柄によるところが大きい。大沢は、南海ホークスの外野手として活躍したのだが、記録としては大したものはない。ただ、人柄が、部下に慕われるような親分肌で、ごく自然に「大沢親分」と呼ばれた。大沢の自慢は、唯一「レフトゴロ」を達成したことである。

ライトゴロは、高校野球ではしばしばみられる。バッターランナーが鈍足であったり、ライトが思い切って前進守備をしていて、ライト前のヒットのはずがアウトになる。プロ野球でもまれにみられることがある。センターゴロも珍しいプレーだが、大リーグにはこれを売り物にしていた選手がいた。・・・ただ近代野球では、はじめからアウトにするのを諦めている可能性もある。

大沢のレフトゴロの話は、学生野球で、リーグ戦だからお互いにその癖を知っていた。だから、バッターをよく観察していて、「アッ、こいつはレフト前にチョココンとバットを当てて走るつもりだ」と読んで、スルスルと前進して1塁でアウトにしたものである。

このコーナーは、大沢親分の人柄でできたようなものだから、マイナースポーツで10代の選手が頑張ったりしたとき、天晴れ！を連発していた。同じスポーツマンとして敬意を表していたことがよくわかる。・・・このあたりが、「親分」と呼ばれる人柄を表している。

張本は、3085安打の日本記録と、シーズン最高打率を誇る。・・・ところが、スランプなどでヒットが出そうにないときには、出場しなかったりした。守備に関しては、プロとしては並以下であった。守備範囲も狭いし、肩も弱い。巨人にいたとき、投手陣からかなりのブーイングが起こっていた。いくらヒットを打っても、あの守備をなんとかしてくれ、というわけである。

人格的には、結構好き嫌いが強く、たとえば元阪神の新庄などは嫌われていた。新庄というのは不思議な男で、守備・肩の強さは日本でも有数のプレイヤーであるが、打撃に難があった。一軍でも.250、二軍でも.250。大リーグでもそうで.250。マイナーリーグでも.250。つまり、どこにいても4回に1回しかヒットが打てない。あるとき、センターを守ってい

た。そのとき、いい当たりのセンター・オーバーのライナーが襲った。すると、新庄は、普段の守備位置で受けるような仕草をしたから、打った選手は、「あれ？ 手ごたえがあつてんけど、」新庄がいまにもキャッチするふりをするから、半信半疑で1塁に向かって走る。普通なら全速力で走って少なくとも2塁打、ふつうは3塁打である。そしてボールはセンター側のフェンスに直接当たって、その跳ね返ったボールを2塁に送り、シングルヒットにとどめた。

これはアホやと思われていた（大失礼！！）新庄の頭脳的な守備で、いずれにしても間に合わないから、咄嗟にそう判断した。好プレーである。それこそ天晴れ！である。……大リーグでも同じプレーをしたのがいて、どこかで読んでいた可能性がある。アホと違います。張本は、偶々でしょうなどと何やかやと言っていたが、この事実を知らない。まあ、言わせてもらえば、張本に守備のことでゴチャゴチャ言われることはない！

また、大リーグの野球には緻密さが無いというが、それではなぜ、日本で一流と言われた連中が、イチロー以外はせいぜい良くて並、あとは並以下でしかないのか？ 当たり前のことで、あれは大リーガーの珍プレーの場면을放映しているもので、喝！の場面である。それを大リーグ全体の評価にするのはおかしい。第一、大リーグの試合をずっと観戦したわけでもないのに、ごく一部のプレーで大リーガーをけなすのは失礼だし、間違っている。素人が口出しするんじゃない！と女性評論家に向かって言ったらしいが、このあたり、張本のほうが専門家として恥ずかしいのではないか？

大沢が亡くなってから、ゲストは野球選手だった人ばかりではないか。記録を比べれば、いずれも張本に面と向かって楯突ける人はいない。せいぜい、長嶋、王、野村くらいのものではないか。長嶋は出られないし、王はこんなバラエティには出ないし、野村は日曜日の朝から見たい顔ではないし、……こうなると、大沢親分の存在価値がいかに凄かったか！

2013.09.26.